

令和4年度 三田市協働事業提案制度 「ええやん！やってみよっ！」

団体名： アートシティさんだ研究会

提案事業名： 「大石輝一没後50年展」（「さんだデジタルミュージアム」の創設準備）

アートシティさんだ研究会では、三田ゆかりの芸術家大石輝一の没後50年にあたる本年10月に彼の芸術、人柄、情熱を顕彰したいと思っている。夙川の画家大石は、昭和35年、当時まだ未開であった三田市広野淡路開拓村の一角に、芸術の理想郷「アートガーデン」を建設するため一人で開拓を始める。彼の一途な行動と思想は、多くの学生達の共鳴を呼ぶこととなる。大石は多くのモニュメントを完成させるが、昭和47年2月、積年の夢「複製画美術館」の礎石を置くこともなく病没した（享年77歳）。現在三田には、大石の油彩画作品は全く残されていない。その上、無人のアートガーデンにある石碑やモニュメントは、朽ちるを待つ状態にある。このままでは、三田市民の記憶から大石輝一の名前が消えるという危惧は、多くの人たちが意識を共有するところである。

研究会は、調査活動の成果をとり纏めデジタル映像化技術を活用して、永遠に大石輝一を三田に残したいと思っている。アート作品のデジタル映像化は、場所と時間の制限抜きにアートを楽しめる機会を提供し、かつ作品を将来に伝承する術となる。これは、大石の「複製画美術館」と通ずるものである。「大石輝一没後50年展」は、美術遺産やアート作品の保存と公開を目的とした「さんだデジタルミュージアム」構想の第一ステップとなるものである。本展示会は、令和4年度日本芸術文化振興会助成事業に内定している。

本展示会は、クラウドファンディングと一般募金による資金調達を試み、成功裏に推移している。展示会には西宮市大谷記念美術館、関西学院大学、等に所蔵絵画の出展協力をいただく。また、兵庫県、三田市、西宮市、三田市観光協会、三田市教育委員会、三田市文化協会、三田市美術協会、神戸新聞社、ハニーFM、サンテレビ等に広報目的の後援をいただく。更に、市内の中高生中心にアートガーデンのジオラマを制作展示する計画が進んでいる。